

SCCR 第3 聖会
「御霊の実」
ガラテヤ 5:16~25

主題聖句：「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」（ガラテヤ 5:22）

朗読箇所：16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。17 肉が望むことは御霊に逆らい、御霊が望むことは肉に逆らうからです。この二つは互いに対立しているので、あなたがたは願っていることができなくなります。18 御霊によって導かれているなら、あなたがたは律法の下にはいません。19 肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、21 ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。25 私たちは、御霊によって生きているのなら、御霊によって進もうではありませんか。

始めに

「御霊の実」について自己採点して見よう。「十分持っている」は1; 「まあまあ持っている」は2; 「普通」は3; 「足らな

いと思う」は4;「ものすごく欠けている」は5

愛()

喜び()

平安()

寛容()

親切()

善意()

誠実()

柔和()

自制()

A. 肉の行いと対照的 (17~21 節)

「御霊の実」の反対概念である「肉の行い」が17-21 節に示されている

1. そのリスト:

a. 性的な不道徳

不品行:非合法的性関係

汚れ:神との間を隔てる心身の汚れ

好色:官能本意主義

b. 間違った宗教

偶像礼拝:神ならざる神を拝む

魔術:占いや魔術の使用

c. 醜い人間関係

敵意:自分と異なる人々への敵対的な態度

争い:敵意の現れとしての言葉や行動

そねみ:成功した他人を羨ましく感じる感情

憤り:感情のコントロールを失った爆発的な怒り

党派心：利己的な野心

分裂：その野心によって結びついた人々が形造る党派

分派：教会内の党派で、ある確信に基づいて行動するグループ

嫉み：他の人を蹴落としたいという苦い思い

d. でたらめな生活

酩酊：酒の飲み過ぎ

遊興：道楽、放蕩

2. リストの目的:神の助け無しには、人間は如何に墮落し得るものかを示す為。

B. 御霊の実(22~23節)

1. 御霊との親密な歩みの結果:これらの「実」は、私達の内注がれている御霊が生み出す新しい性質。私たちが聖霊と近く歩んでいると、知らずの中に受ける感化。

2. 9つの実是一体的：肉の行いは複数だが、御霊の実は単数。様々な種類の果物ではなく、一つの木から生る一房の葡萄、少しずつ色合いの異なる実の事。アボット博士は、この9つを、愛を基本と捉えて説明している：喜び（歌っている愛）、平安（憩っている愛）、寛容（持ちこたえる愛）、親切（分かち合う愛）、善意（愛の完全さ）、誠実（習慣となった愛）、柔和（愛の触れ合い）、自制（責任感を伴う愛）。

3. 麗わしい諸性質

愛 vs 憎しみ:自分を与える犠牲的な愛（神に対して、隣人に対して）

喜び vs 悲しみ:逆境の中でも湧き出てくる主にある喜び

平安 vs 思い煩い; 困難な状況下でも主に受け入れられている
顔きから来る心の安らぎ

寛容 vs 短気: 腹立たしく感じるような環境や失われない忍
耐強さと思ひ遣り

親切 vs 意地悪: 他人への善を示す思いやり、他人に役立つ親
切な行動

善良 vs 邪悪: 物事を大らかに暖かく見ようとする心、値しな
い者に向けられる善意

誠実 vs 疑い: どんな事情の中でも真実である姿勢、あらゆる
義務と期待に応える真実

柔和 vs 暴虐: 他人の喜びの為に利己的な思いを放棄する謙
り、強さと柔らかさの共存

自制 vs でたらめ: 神の宮である体をより高い目的の為にコ
ントロールする克己心

4. キリストらしさ: 「御霊の実」はイエス・キリストの中に
具現されていた。

愛: イエスは全き愛の人で、敵をも愛する愛に満ちておられ
た。

喜び: 聖霊による喜びに満たされていた。

平安: 嵐の中でも静かに眠っておられた。

寛容: 人々の嘲りを寛容によって持ち応えられた。

親切: 人々の弱さ、病を担って下さった。

善意: 十字架に付けた兵士の赦しを祈った。

誠実: ラザロの墓で、その復活に関して、み父の最善を絶対
的に信じておられた。

柔和: 最後の晩餐の席で洗足をされた。

自制: 活動後の翌朝も、早起きをして祈りに打ち込まれた。

5. 努力の結果ではない:これらの徳目によって不必要に自分を責めたりする不信仰、自分を誉めたりする傲慢の罪から救われよう。果物は結実に向かって努力しない。欠点を指摘されたら認めて遜り、褒められたら栄光を主にお返しして、ますます励もう。

終わりに

「御霊の実」の約束を感謝し、ひたすら、御霊と共に歩む道を続けよう。